



TOPIC
1

令和7年度国立大学教養教育実施組織会議(5/24)の報告

令和7年5月24日に、第61回国立大学教養教育実施組織会議が開催されました。本会議は、昭和39年（1964）年以降、60年以上に亘り大学教養教育の発展に貢献してきた歴史があります。今年度の当番校は茨城大学であり、今後の大学における教養教育をめぐって、一つの全体会と四つの分科会が設けられ、提案された課題についての活発な議論が交わされました。本学からも、教養教育に関わる教員が各々の活動内容に応じて、それぞれの分科会に参加しました。

以下に、全体会・各分科会の出席者からの報告を掲載いたします。

全体会：学生および社会の変化から今後求められる教養教育について

全体会議は、「学生および社会の変化から今後求められる教養教育について」がテーマでした。少子化に伴う入学者の学力低下への懸念、またIoTや社会のニーズの変化を踏まえて、今後の教養教育をいかにデザインしていくかが話し合われました。茨城大学より提案がなされ、香川大学、新潟大学、千葉大学より報告がありました。

提案大学の茨城大学では、学年暦の都合や授業形式・内容の多様化、リテラシー教育の必要性に応じるため、105分授業の導入や倫理教育・情報教育の充実を図っているとのことでした。

香川大学では、全学共通教育改革WGを結成し、さまざまな分野の学問に触れる「学問への扉」といった科目を開講するなど、学生の学びへの意欲を喚起するような取り組みを行なっています。

新潟大学では、メジャー・マイナー制を採用し、メジャー科目として各学部ごとに指定の単位数を取得するとともに、興味・関心に応じた学部・分野横断的なマイナー科目も履修できるような仕組みを作っています。

千葉大学では、総合大学の強みを活かし、専攻以外の分野についても学べる副専攻プログラムや、授業科目を複数組み合わせたパンチプログラムを提供し、学生が学びの方向性を広げていけるよう促しています。

全体的に、学際的な分野・科目の創設や、授業形態の変更など、学生がより学びを深めていけるような取り組みを行っているのが印象的でした。（長谷川暁人）

第一分科会：適正な教養教育の開講規模について

第一分科会は「適正な教養教育の開講規模について」が議題でした。

全学共通教育などのいわゆる教養教育の負担感が高まっていく中で、制度そのものはずっと変わっていない、というのが現状です。その中で、富山大学、名古屋大学、岩手大学から、教養教育に関する取り組みを報告してもらいました。

基本的には二つの方向性があり、一つは科目やカリキュラムの転換です。例えば、アラカルト型からコースメニュー型にして、ある程度選択肢を絞るとか、科目を大括りにするなどの取り組みがありました。もう一つは組織や運営方法で、例えば、セメスター制をクォーター制にして教員の負担を減らす、また学部ごとに担当科目数を課すノルマ制から分科会での運用に任せる方針に変えるなど、維持可能な形に決定方法を変えていくやり方です。

全体として、いかに限られた予算や人員で教養教育を維持していくか、という論点が多く、また今後、オンラインやオンデマンドなども有効な方法となりうることが確認されました。（長谷川暁人）

第二分科会：大学院における教養教育の在り方について

第二分科会では、「大学院における教養教育の在り方について」について議論しました。まず、神戸大学（提案大学）から提案趣旨として、大学院教育における教養教育の必要性について説明があり、各大学の事例について伺いたい旨が報告されました。続いて、佐賀大学、熊本大学、九州大学から、それぞれの大学における「大学院での教養教育プログラム」の取組事例について報告がありました。

意見交換では、大学院で教養を身につけることは重要である一方、専門教育第一という考えもある中、どのように対応していくか、などについて議論しました。大学院での教養教育を継続的に展開していくことが将来の高等教育にとって望ましいとの認識を分科会として共有しました。（椎名貴彦）

第三分科会：生成AIの活用について

富山大学から、生成AIを活用した教育に関する各大学の具体的な実践、成果、課題について情報共有を行うことが提案されました。弘前大学からは、「地域学ゼミナール」にて、学生が自らアイデアを考えた後、同じ問いを生成AIにも投げかけることで、人間とAIの思考の特性を比較しながら学ぶ実践例が紹介されました。大阪大学では、『生成AI教育ガイド』を教員に配布し、誤情報やブラックボックス性、著作権・個人情報など7項目の注意点に加え、授業設計や成績評価の手順も提示しているそうです。北海道大学では、Copilotのみ学生に推奨されており、現在はMoodleで配信予定のオンライン講座を開発中とのことです。全体を通しては、授業に生成AIを取り入れる際には、アイデア出しやブレインストーミングの初期段階で、人間の思考との違いを認識させるための有効なツールとなることなどが話題となりました。

(清島絵利子)

第四分科会：英語科目におけるe-learningの実施について

第四分科会報告では、「教養英語におけるe-learningの実施」をテーマに、茨城大学、長崎大学、静岡大学、東北大学からそれぞれの取り組みの報告がなされました。

茨城大学からは、カリキュラム改革により2年次以降の必修の英語授業を未開講としたことに伴う、学生の自律的な英語学習支援の手法として e-learning を取り入れた新たなカリキュラムの作成が進行中であること、具体的には、2026年度からの実施に向けて、教材の選定や提供方法などが課題となっていることが報告されました。長崎大学からは英語コミュニケーションと総合英語の2系統で英語教育を実施しており、主に総合英語系統の授業で e-learning を取り入れ、「総合英語1」では対面授業と e-learning をハイブリッド型で提供し、「総合英語2」は対面による実施、「総合英語3」では e-learning が中心となり、対面とe-learningを織り交ぜながら学生の能動的な英語学習転換を図ろうとする取り組みが紹介されました。静岡大学は、2020年度まで「アルク・ネットアカデミー」を使用していたが、契約終了のタイミングで、各教員が学生の英語力や興味に合ったe-learning教材の自作とそれぞれの持ち味に合った教材の選択を行っているとのことです。また、それに加えて、2024年度より静岡大学英語スピーチコンテストを開催し、受賞者のスピーチ動画とスクリプトをe-learningコンテンツとする試みについても紹介されました。東北大学では、2年次全学期に「英語3：e-learning」という授業を開講しているほか、再履修者向け科目のほぼ全てを e-learningとしているという報告がありました。

発表後に、英語学習のオリジナル教材の作成について、その方法や担当体制、予算面での各大学の取り組み状況について、また、学生の満足度やe-learningに取り組む学生のモチベーション向上に関する課題や対応について議論がなされました。(異徹)

TOPIC 2

東海国立大学機構教育グッドプラクティス機構長特別表彰式(8/26)の報告

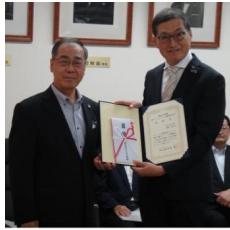
岐阜大学全学共通教育・岐阜学「環境マネジメントと環境経営」の講義について、第2回教育グッドプラクティス機構長特別表彰をいただきました。

岐阜大学の環境マネジメントシステムが全学でISO 14001の認証を取得していること、環境ユニバーシティ宣言をしていること、皆さん知っていますか？多くの方々に知ってもらいたい、環境マインドを持った学生を輩出したいということから2013年度に始めた講義です。「環境」をキーワードに本学名誉教授・長谷川典彦先生（全般）、社会システム経営学環：三井榮先生（経営）、地域科学部：向井貴彦先生（生物）、三谷晋先生（法律）、応用生物科学部：八代田真人先生（農学）、村瀬哲磨先生（獣医）、西村真一先生（農学）、工学部：小林智尚先生（気象災害）、櫻田修（化学・全般）、元環境社会共生体研究センター：村岡裕由先生（森林）の他、東海地区の行政、企業などから6名のゲストスピーカーの方々からの話題提供、ゴミの最終処分場見学から学習しています。地域協学センターの「環境リーダーコース」の上級コースに進むための選択必修科目にもなっている他、希望者に本学の内部環境監査に参加を促し、東京商工会議所主催のeco検定の受験支援も行っています。また、岐阜県、岐阜市、本学施設統括部の協力をいただいています。

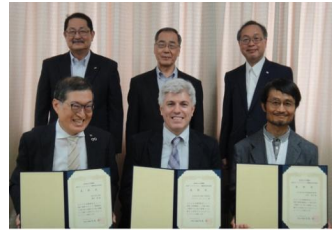
なお、2025年度より「地域と環境SDGs」と講義名を変更、前学期は岐阜市立女子短大、中部学院大、名古屋大との連携開設科目、後学期は従来と同様に岐阜大生に履修してもらうように開講しています。ぜひ、皆さんも環境、SDGsについて私たちと一緒に考えてみませんか。(櫻田修)



授賞式の様子



授賞された櫻田先生（右）



記念撮影

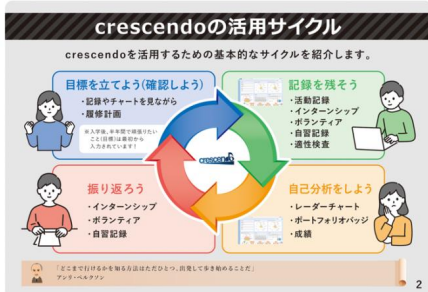
TOPIC 3

学生ステータスシステムcrescendoへの学生情報掲載のお知らせ&履修計画への利用の勧め

岐阜大学生のみなさん、令和5年より導入された学生ステータスシステムcrescendoの利用方法に悩んでいませんか？新しいシステムということでアクセスはしてみたものの、基盤能力のレーダーチャートや成績履歴を確認しただけで終わってしまっていないでしょうか。このシステムの本領が発揮されるのは、実はみなさん自身がさまざまな項目（タブと呼びます）に自身の学生生活の活動を残したときです。例えば、「目標設定と振り返り」に、半期ごとの目標や振り返りを記入しておくことで、学生生活にメリハリがつくと思いませんか？あるいは、ゼミやサークルで実施した活動を、忘れないうちに記入しておけば後から確認するのが楽になります。学内でのTAやSA、あるいはインターンなども、その都度記入しておけば、就職活動のエントリーシート作成などに役立ちます。他にも、読書記録やTOEICなど、岐阜大学生のみなさんの活動を記録しておけるタブが満載です。詳しい情報は、岐阜大学の公式HPをチェックしてみてください。

https://www.gifu-u.ac.jp/campus_life/value/crescendo.html

また、こうしたみなさんの活動記録への記入を補助するために、教育推進・学生支援機構では、学内に散らばっているみなさんの情報を収集し、このシステムに転載することを企図しています。例えば、一年生のみなさんは、入学時に書いたオンラインアンケートでの目標設定が、すでにcrescendoに転載されていることにお気づきかと思います。その他にも、学生のみなさんの所属している「クラブ・サークル活動」、「大学を通じて受けたTOEICの記録」、「留学実績・成果」、「次世代リーダー育成プログラム」、「国際交流」、「社会教育士資格」など、岐阜大学を通じて活動したさまざまな活動成果を、crescendo上に載せていきたいと思います。これらは岐阜大学の学生であるみなさん自身の活動の記録ですので、ぜひ有効に活用してってください。もちろんこれらの記録を編集・追加するのはみなさんの自由です。基本的に外部に公開されることはないページです（公開設定がついているものは、ジョークスとして外部に公開することもできます）ので、ぜひみなさん自身の手で、学生生活を彩り豊かなものにしてってくださいね。（長谷川暁人）



TOPIC 4

#